

韓国農林畜産食品部プレス（2019年6月1日18時14分付け）

国境地域、アフリカ豚コレラ（ASF）の予防特別管理実施

- 自治体、防疫本部、農協などの現場防疫人材集中投入 -

URL:

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QEB8JTJGYmJzJTJGbwWFmcmEIMkY2OCUyRjMyMDYxMyUyRmFydGNsVmllZy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2cmdzRW5kZGVtdHlIM0QIMjZiYnNPcGVuV3JkU2VxJTNEJTI2cGFzc3dvcmlIM0QIMjZzemNoQ29sdW1uJTNEJTI2cGFnZSUzRDElMjZyZ3NCZ25kZVN0ciUzRCUyNnJvdvUzRDEwJTI2aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbHNIJTI2c3JjaFdyZCUzRCUyNg%3D%3D>

（以下、機械翻訳などによる仮訳）

- 農林畜産食品部（長官：イゲホ）は北朝鮮で、アフリカ豚コレラ（ASF）が発生（2019年5月30日OIE公式報告）したことをうけ、国境地域の10の市郡を特別管理地域に定め、緊急防疫措置を実施した。
- 農食品部において5月31日、国境地域防疫強化策を発表した後、各郡の家畜衛生防疫支援本部（以下防疫本部）、市・道の動物衛生試験所、農協などはすぐに防疫活動に乗り出した。
- （血清検査）2019年5月31日から6月7日まで約一週間で、防疫本部と動物衛生試験所の従業員約40人が国境地域（10市郡）に位置する全養豚農家（353農家）を訪問（試験所1、防疫本部1、2人1組）、農家ごとに豚8頭の試料（血液1~2ml）を採取して、ASF発生がないかを確認する。
- （一斉消毒）農協、共同防疫団、各自治体は、40人が消毒車（40台）などを活用して、農家と農家出入り口を集中消毒中で、現在の約70%以上の農家が消毒を完了した。
 - と畜場（4か所）も、独自の洗浄後、高圧噴霧器などを利用して、内部消毒を実施し、出入り車両消毒、防除車両を通じた外部消毒を実施した。
 - 農協は国境地域畜産協同組合5か所を介して消石灰を迅速に農家に供給（農家あたり5包）して農家の進入路等に塗布。
- （点検・予察）農家ごとに指定された担当官（100人）が担当農家を訪問して、ASFの疑い症状がないか、消毒がされているかを確認し、ASF発生時申告要領などを教育している。
 - また、養豚農家のフェンス施設老朽化などを点検し、フェンス未設置農家については、早期に設置するように案内する。
 - 防疫本部電話予察チーム（京畿道17人、江原道14人）は、週末であっても、毎日1回担当農家との電話通話を行い、ASF発生の有無などを確認している

□ 家畜飼料、糞尿車など畜産関連車両消毒を強化するために拠点消毒施設を運営して、主要道路の制御警戒所設置も拡大する。

※（現在）拠点消毒施設 2、制御警戒所 2→（6月6日までに拡大）拠点消毒 10、制御警戒所 9

○拠点消毒施設では、畜産車両の車輪、側面に付着した有機物を完全に除去し、消毒を実施する。

○制御警戒所は農場入口などに設置して農場出入り車両と人などの消毒を実施し、消毒済証の所持などを確認する。

□（南北陸路国境検疫）京義線の南北出入事務所の国境検疫も強化する。

○京義線の南北出入事務所は一日約 19 人、車両 9 台の出入りが行われる

○動・植物検疫官の各 1 人ずつ 2 人訪朝人員を対象に、国境検疫の事前教育や車両などの消毒を行う。

□ 農食品部は、北朝鮮 ASF 発生による初期措置として一斉防疫を実施し、その後、継続的に消毒、血清検査、点検・予察など防疫措置を実施する計画である。